１０年の道のり

「僕の前に道はない。僕の後に道は出来る。」とは高村光太郎の詩「道程」の冒頭のことばですが、私達のキリスト教文化研究センターの歩んできた跡にも何か道らしいものが見えているでしょうか。ひいき目に見ても「道」と言えるようなものではありませんが、手探りしながら、ともかくも歩を進めてきた足跡が山路の踏みわけ道のように途切れることなく続いていることは事実です。

平成13年４月に稲井道子学長のもとで発足した鹿児島純心女子大学キリスト教文化研究センターは、キリスト教学の専門家集団のための研究機関ではなく、性格の非常に異なる２学部の教員の多彩な専門性をキリスト教文化研究に反映させようとするものでした。そうした幅の広さをもって「日本におけるキリスト教文化の普及、発展に寄与すること並びに研究会、講演会、シンポジウム等の諸行事を通じて、建学の精神を継承発展させ、本学の教育理念を学内外に広めることを目的とする」と規程には謳われています。非常に大きな自由と責任が与えられていることになります。しかし現実には、発足当時６名、その後多少の増減はありながら現在10名という規模の所員グループの時間と能力の許す範囲で身の丈にあった活動をするしかありません。

通常の活動の中に劇的な業績はありませんが、日本カトリック大学キリスト教文化研究所連絡協議会には毎年１名の所員が参加し、夏季休業中を除く毎月１回の所員会もほとんど欠かさず続けてきました。その中から生まれるアイディアを実践に移したものが大なり小なりの足跡となって１つの軌跡を形づくっています。時には学長から課題を与えられることもあり、国際文化研究センターとの共同企画を組むこともありました。何事にせよ、所員の和やかな纏まりと大学当局の支持、事務局の惜しみない協力があってこそできることです。また、学外から講師をお招きしたり研修旅行にでかけた場合には、講師の先生方ご自身や訪問先、関係業者の方々など、本当に多くの方面で善意とご協力をいただきました。ここでお名前を挙げることはできませんが、心からの感謝をこめて以下に主な出来事を思い起こして見たいと思います。

○定期的に行うこと

１．日本カトリック大学キリスト教文化研究所連絡協議会参加

平成13年以後 毎年代表１名参加

２．キリスト教に関する学生の意識調査　入学生、卒業生

３.「鹿児島純心女子大学キリスト教文化研究センター　報告」

平成17年(2005)第１号　以後隔年刊行

○年ごとの記録

平成13年度（2000－2001）　設立　　当初所員数6名

日本カトリック大学キリスト教文化研究所連絡協議会　参加

キリスト教に関する学生の意識調査　開始

平成14年度（2001－2002）

内部的整備、15年度、16年度企画に向けての準備

平成15年度（2002－2003）

６月６日　日本カトリック大学キリスト教文化研究所連絡協議会

会場校となる。

特別講演「現代の日本文化に対する大学の役割」

フランコ・ソットコルノラ師（ザベリオ会司祭）

於：管理棟　会議室

７日　連絡協議会オプショナル　ツアー

「フランシスコ・ザビエルゆかりの地と桜島」実施

平成16年度（2003－４）

大学創立10周年記念キリスト教文化研究センター特別企画

１．11月20日~26日　パネル展示「学園創立者　江角ヤス先生」

２．17年2月21日

鹿児島純心女子大学キリスト教文化研究センター

第1回公開セミナー「鹿児島とキリスト教」1

基調講演「川内を中心とするドミニコ会の活動」

岡　本　哲　男　師（ドミニコ会司祭）

於：管理棟　会議室

３．17年3月21日~23日

本学教職員対象　研修旅行「信仰のふるさとを訪ねて」

天草、長崎方面　　参加者16名

平成17年度（2005－2006）

６月　鹿児島純心女子大学の精神をあらわす簡潔な表現を求める、

との学長諮問に応えて　「いのちを育む知性と愛」　を提案。

鹿児島純心女子学園の共通標語として採択される。

８月　「鹿児島純心女子大学キリスト教文化研究センター　報告」

第１号発刊　以後隔年刊行

９月14日　鹿児島純心女子大学キリスト教文化研究センター

第２回公開セミナー（学内公開）「鹿児島とキリスト教」２

講演「鹿児島とキリスト教」

元鹿児島史談会会長　純心短大非常勤講師

山　田　尚　二　氏

於：キリスト教文化研究センター（図書館２階）

平成18年度（2006－７）

11月４日

国際文化研究センター、キリスト教文化研究センター共同企画

「ザビエル生誕500年記念シンポジウム『ザビエルの拓いた道』」

シンポジスト　　岸野　久氏（元桐朋学園大学短期大学教授）

川村　信三師（上智大学准教授）

片岡　瑠美子氏（長崎純心大学教授）

コーディネーター 竹山　昭師（鹿児島純心女子大学教授）

於：江角講堂

19年２月23日　所員研修

玉竜山福昌寺訪問　住職 富永国俊師よりザビエルについて伺う。

平佐城址、京泊カトリック教会址（レオ七右衛門ゆかりの地）探訪

平成19年度（2007－８）

（薩摩の殉教者レオ税所七右衛門を含む日本188殉教者列福決定）

８月29日~31日

現旧教職員対象研修旅行「信仰のふるさとを訪ねて　２」実施

下五島・長崎方面　　参加者　16名

８月　ザビエル生誕500年記念シンポジウム委員会編

「ザビエルの拓いた道―日本発見、司祭養成、そして救い」

南方新社より出版

20年３月　「鹿児島純心女子大学キリスト教文化研究センター　報告」第２号刊行

平成20年度（2008－９）（ルルドの聖母出現150周年）

４月　キリスト教文化研究センター事業として聖歌隊「コールマリエ」結成

４月６日　19年度の学長諮問「建学の精神の具現化方策」への答申として

「建学の精神具現化の一方策（提言）」を提出

９月~10月　サンタマリア館完成に伴いキリスト教文化研究センター移転：

図書館2階よりサンタマリア館１階へ。

10月20日~26日　大学祭参加企画　菅井日人写真展

「祈りの聖地ルルド」開催　　於：図書館１階

21年１月20日　アセンブリーアワー

キリスト教文化研究センター主催特別講演 「私の出会った人々」

ノンフィクション作家　今井　美沙子　氏

於:江角講堂

平成２１年度(2009－10)

12月23日　クリスマスミサと交わりの会(学生教職員、近隣の方々)

ミサ:　セント・メアリーズ　チャペル

お茶の会:　学生ラウンジ

22年２月17日

鹿児島純心女子大学キリスト教文化研究センター

第３回公開セミナー 「鹿児島とキリスト教」3

基調講演「ザビエル以後の薩摩のキリシタン達」

日本二十六聖人記念館館長

デ・ルカ・レンゾ師(イエズス会司祭)

於:オーディオルーム

３月31日 「鹿児島純心女子大学キリスト教文化研究センター　報告」第３号

刊行

平成２２年度(2010－11)

12月23日　クリスマスミサと交わりの会

21年度に同じ

23年３月11日

鹿児島純心女子大学キリスト教文化研究センター

第４回公開セミナー「鹿児島とキリスト教」4

基調講演「薩摩国におけるキリスト教宣教の展開

―島津氏とキリスト教を中心にして―」

聖トマス学院大学教授東京大学名誉教授

五野井　隆史　氏

於:サンタマリア館　階段講義室

３月17日～ 19日実施予定　企画

キリスト教文化研究センター開設10周年記念企画

「学園精神の源を求めて―創立者生い立ちの地を訪う旅」

(３月11日東日本大震災発生のため、23年度９月に延期)

平成２３年度（2011－12）

９月17日～ 19日

キリスト教文化研究センター開設10周年記念企画

鹿児島純心女子学園現旧教職員対象：

「学園精神の源を求めて―創立者生い立ちの地を訪う旅」

津和野、島根県（出雲、斐川町、松江、安来）方面

参加者　28名

12月23日　午前９：30 クリスマスミサ（学内クリスマス開始時）

於：江角講堂　　本センターの役割は支援

24年２月24日

鹿児島純心女子大学キリスト教文化研究センター開設10周年記念

第５回公開セミナー「創立者シスター江角ヤス」

基調講演　「創立者江角ヤス先生」

前純心学園教諭　山長　豊實　氏

於：サンタマリア館 階段講義室

３月　「キリスト教文化研究センター　報告」 第４号刊行

平成23年度は私達のキリスト教文化研究センターが設立後10年を経て新しい10年期への１歩を踏み出す年として、特に学園創始の原点を思い起こし創立者の心に触れることに焦点をあてて活動をしてきました。学園の歴史の中には、私たちの大学に対して、また大学共同体の一員である私達一人一人に対してどのような促しがあるのでしょうか。道徳が普遍的な根底を見失い異なる価値観が錯綜する中で徳育の重視が叫ばれている今日の日本社会に、カトリック大学はそれぞれ建学の精神の光をかかげて共通の究極目標である永遠の価値を指し示して行かなければならないのでしょう。手探りの段階から中々抜け出せない鹿児島純心女子大学キリスト教文化研究センターですが、祈りながら道をもとめ、実践の努力を重ねて行きたいと思います。

2012年３月

荒井聰子　記